

船舶性能設計 レポート課題

題「船の最後」

学籍番号 82118114

氏名 武藤豊明

これまで船舶海洋工学科コースの中で船を造りだすことを中心に講義を受けてきたが、造りだされた船達がどこで？ どうやって？ その一生を終えるのかは全くと言って良いほど知らない。

船はどんな最後を迎えるのか。

あらすじ

・ 船の解体

十数年前まで船の解体は日本で行われていたが、人件費の安さや高い危険性などの理由により、近年解体作業はインドやバンクラディッシュと言った途上国で行われるようになってきている。



その作業は大変大雑把で干満の差を利用して船体を海岸に故意に座礁させて、そのまま、

その場所で人力やダイナマイトによる爆破で解体作業が行われる。しかも作業員はボロ布を着ているの



みで素手・素足で、鉄や塗料の粉塵、残留化学物質にまみれながらの作業をしているため作業員や周辺住民の健康被害、周辺の環境被害が懸念される（1日1隻・犠牲者1人）。

・船の墓場

現役を退いた船の一部は解体されずに世界の何処かに移送され放置されるものや海底に沈められるものがある。

そこには主に経済問題、アスベスト等の残留化学物質に関する問題、法律などが絡んでいる。

放置され朽ち果てるのを待つ船が多く存在する地域あり、永久に続きそうな錆と腐敗の





風景を比喻して「船の墓場」と呼ぶが、そういった地域が世界中に多く散在していることが問題に

なっている。

海底に沈められるものは船体が巨大なためにその海域に大きな影響を与えるが、米国のリゾート地では故意に不要になった戦艦を沈めて魚の棲みかとしてダイビングスポットに利用しているところもある。

・環境問題

先にも少し触れたように船舶の解体、放置、海底放棄によって生じる環境問題は塗料（P C B）・重油等の残留化学物質、スクラップの健康被害、景観問題、災害安全性、生態系への影響がある。

また数十～数百年という長い目で環境問題を捉えると見えてくるのがF R P製の漁船である。なぜならF R Pは朽ちないのだ。加工しやすく安くて丈夫なF R P船は放置されれば半永久的にその醜態

をさらし続けることになる。

船による環境問題を取り扱う法律としては主に
産業廃棄物に関する法律が関係するようだ。

参考文献

<http://sankei.jp.msn.com/life/environment/080318/env0803181135000-n1.htm>

<http://labaq.com/archives/51150776.html>

<http://www.geocities.jp/uzbekfriends/moynaq.html>

<http://d.hatena.ne.jp/dazed/20061209/1165685669>

<http://10e.org/mt/archives/200511/090028.php>

<http://google-earth-travel.net/mercury/0901100011.html>

<http://blog.goo.ne.jp/tairingo/e/d74433bb6eafd9eb86117b24841c36ba>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%88%B9%E8%88%B6%E8%A7%A3%E4%BD%93>

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1418600819

http://tohoku.env.go.jp/to_2008/0331a.html

http://www.patagonia.com/web/jp/patagonia.go?slc=jp_JP&sct=JP&assetid=6465

http://www.opacity.us/gallery87_wrecks.htm?redirect=1